

第2回 町田市立学校の新たな学校づくりのあり方検討部会の議事整理について（案）

第2回 町田市立学校の新たな学校づくりのあり方検討部会において検討した内容について、議事整理をいたしましたので、下記のとおり報告します。

1 国・他自治体における学校施設整備方針の策定状況（山口部会長情報提供）

(1) 「学校施設整備指針」（文部科学省）

【ポイント】

- ①整備指針を踏まえて整備方針・計画を考えている自治体が多く、影響力のある指針。
- ②「総則」は改訂されるたびに見直されており、各自治体の整備方針などに影響している。
- ③整備指針における留意事項の書き方は、その必要性に応じて「重要である」「望ましい」「有効である」という3段階に書き分けられている。

(2) 「学校施設整備基本構想の在り方について」（文部科学省）

【ポイント】

- ①各自治体に対して、学校施設の整備方針の策定を推奨するためにまとめられたもの。
- ②整備方針に求められるものとして「教育（ソフト）・学校施設（ハード）の一体的な検討」「学校施設の課題の的確な把握」「予算状況を踏まえた優先順位づけ」「他部局との連携（統廃合・複合化）」が挙げられている。

(3) 他自治体の学校施設整備方針等の構成・表現

【ポイント】

- ①整備方針の構成・内容は自治体によって差異が大きい。独立した整備方針とする自治体もあれば、長寿命化計画の一部としている自治体もある。基本理念に相当する内容だけ方針化する自治体もあれば、具体的な整備内容に踏み込む整備方針を定めている自治体もある。
- ②整備方針に関して、留意すべきは普通教室の面積。事例紹介している北区や府中市は、普通教室の標準的な面積（〇×〇m）を定めている。整備方針にどこまで書くのかについても検討課題となる。

【町田市のこれまでの学校施設整備】 ※施設課説明

- ①町田市では、2000年以降に建築した学校は、学習指導要領や国の法制度、学校整備指針を踏まえており、その時代の状況に合わせて建築してきた。
- ②鶴川中を建築した頃は、自ら主体的に学ぶ時間をつくるために教える量が減った時代。鶴川中は教科教室型で建築した特徴的な学校。
- ③その後、グループ学習や習熟度別学習などの多様な学習形態に対応するために、小山ヶ丘小、図師小、小山中央小といった新設校では、オープンスペースを採用している。間仕切りのない小山ヶ丘小、可動式間仕切りを設置した図師小、小山中央小と工夫を重ねてきた。
- ④2011年につくった小山中は、非常に狭い敷地に大規模校をつくるため工夫した結果、崖地に校舎をつくることになった。
- ⑤鶴川第一小以降は、現校舎のある土地で改築を行うという新設校の整備とは制約条件が異なる事例。オープンスペースも検討したが、必要教室数が多くオープンスペースの確保が難しいことから、多目的室を整備してコンパクトな学校をつくるという判断をしている。
- ⑥町田第一中も、現校舎のある土地に大規模校を収めるために回廊式の学校となっている。
- ⑦長寿命化計画は町田市でも2020年度末までに策定する予定で検討を進めている。その中で表す方針は、この検討部会でまとめられた内容を反映したいと考えている。

【質疑】

Q：府中市の普通教室の広さ（8m×10m）について、「原則～」とあるが、例外はケースによって面積が小さくなるという意味が想定されているのか。

A：大きくなることはあまりなく、ケースによって下回ることが想定されていると思う。「8m×10m」が難しい場合に「9m×9m」とすることも想定されているのではないかと。

（補足説明）※施設課

最近の整備事例では、函師小が「8m×8.5m=68㎡」、鶴川第一小が「8m×8m=64㎡」中学校は、小山中が「8m×9m=72㎡」、町田第一中が「8m×8.75m=70㎡」で整備している。限られた面積の中で、少しでもゆとりのある教室を計画したいと思っている。

2 町田市立学校の新たな学校づくりのあり方検討部会検討事項及び検討スケジュール

3 町田市立学校の新たな学校づくりの基本理念・基本方針 骨子（案）

（1）（仮称）町田市立学校施設整備方針の独立について

検討部会の検討事項である「町田市立学校の新たな学校づくりの基本的な考え方」（以下「基本的な考え方」のうち、「（仮称）町田市立学校施設整備方針」については、各校の新校舎建設基本計画及び設計に活用するとともに、環境変化等を踏まえて改訂をする必要があることから、基本的な考え方から独立させる。

（2）「町田市立学校の新たな学校づくりの基本的な考え方」の構成（検討項目）について

【ポイント】

- ①学校施設整備指針に施設計画という章がある。町田市の整備方針において配置計画について記述を追加するかどうか検討しておく必要があるのではないかと。
- ②具体的な検討をするにあたって、実際にオープンスペースや多目的室を使用している学校の声をもとに議論したいので、特に2000年以降に新しく建築された学校の利用状況について、現地調査結果をもとに教員の方々のご意見を確認したい。
- ③普通教室について、「普通教室+オープンスペース」と「普通教室の拡張（収納スペースの確保）」という選択肢があるが、普通教室も大きくしてオープンスペースも取ったら全体面積が大きくなってしまふ、といった面積のバランスについて、検討する必要があるのではないかと。

（3）町田市立学校の新たな学校づくりのあり方検討部会の検討スケジュール（案）について

【ポイント】

- ①基本理念の「放課後活動の拠点づくり」「市民生活の拠点づくり」を考えると第7回「学校施設の多機能化・複合化への対応」が重要だと思うので、もう少し時間を取って話し合う必要があるのではないかと。
- ②基本理念・基本方針は、ある程度議論をしたうえで、各論に入る必要があるのではないかと。特に普通教室については、面積に制約がある中では「教室を広くする」「教室数を多くする」のどちらを選ぶのか、「普通教室の広さを優先するのか」「オープンスペースの確保を優先するのか」といった方針を定めてから具体を議論する必要があるのではないかと。
- ③現地調査結果やアンケート調査結果の情報が揃っていない中ではわからないことがあると思う。その中で、基本理念・基本方針について、情報が揃った段階で議論をしてから各論に入るのか、基本理念・基本方針と各論の話を並行しながら議論するのか整理する必要があるのではないかと。

④時間には限りがあるので、重要な項目に時間をさけるよう議論するべきところを抜き出して議論する。議論するべきところ以外は、提案された内容を確認して承認する形とするのがよいのではないか。

(4) 町田市立学校の新たな学校づくり基本理念骨子(案)について

【ポイント】

- ①基本理念の「放課後活動の拠点づくり」について、小学校6年生までの児童が学童保育を利用できるようになることについて、予算を使って部屋を増やす方法ではないやり方を考えていく必要があるのではないか。
- ②基本理念案は教育プランなどに則ってつくっていると思う。放課後活動の拠点づくりは国もかなり力を入れている部分ではあるので、この3本柱が適しているのではないか。
- ③町田市としてどこにこだわるのか、町田らしさというのが理念の中にしっかりと表れている方がいいと思う。町田市は地域が核となった地域づくりの基盤ができていますので、そこを生かすことを意識しながら議論を進めていく必要があるのではないか。
- ④町田市の特徴が生かせるところが一番大事だと思う。まず3本柱で話をして、議論を重ねていくうちにまた違った角度から理念を考えることも出てくると思うので、順序にこだわらずに議論していくことができればいいと思う。

(5) 町田市立学校の新たな学校づくり基本方針骨子(案)について

【ポイント】

- ①基本方針2と3は非常に重要なことだが、基本方針1は、実務面で難しさがあるのではないか。どのような土地の条件でも同じような教育環境として整備をしていくのか、土地の条件に応じていくのかということを考える必要があるのではないか。土地の条件によっては、ある部分は少しレベルが下がっても、他の部分を充実させることでバランスを取るといってもありえると思う。
- ②敷地に余裕がある場所はグラウンドが広く取れて、校舎もゆとりを持たせることができる一方で、駅近の敷地が限られた場所ではコンパクトに作らなければならないということがある。実際設計しようとしたときに制限が出ないような形で書くのがいいのか、議論が難しいと考えている。
- ③要は「学校用地の条件を最大限有効に活用」という視点でやるわけで、狭ければ狭いなりに土地の条件を最大限活用するという考えを持つことだと思う。方針の書き方について、文部科学省が「重要である」「望ましい」「有効である」と語尾を書き分けているように書きぶりを変えることで対応すれば分かりやすくなるのではないか。
- ④方針の書き方は、文部科学省は指導的な立場なので、一番強くても「重要である」までしか言えない。自治体の方針としては、「原則」という言葉での逃げは必要かもしれないが、各学校に最低限つくる必要がある施設機能については「すべきである」と言い切ったほうがいいのではないか。